



社会福祉法人
福角会

令和5年度

キャリアアップ座談会報告書



[日時]令和5年11月6日(月)
14:30 ~ 16:30
ラ・ルーチェにて開催

令和5年度社会福祉法人福角会「キャリアアップ座談会」を開催しました！

少子高齢化による労働人口が急速に進み、女性の活躍推進が進む一方で、仕事を取り巻く環境や家庭との両立において、今後のキャリアに戸惑いや不安を抱えている方も多いのではないのでしょうか。

そこで、現在の生活や今後の働き方、就労環境についてどのように感じているのか、また自身のキャリアについて考える機会として、キャリアアップ座談会を開催いたしました。

現在、係長や主任の立場にある女性職員さんにご参加いただき、これまでのキャリアに関する体験談や、それぞれが抱える不安や悩みなどについて語り合いました。今回の座談会の様子をご紹介します！！

～参加者紹介～



Aさん

栄養士兼調理員。

入職4年目。ウィズに1年弱勤務のち、MOREに異動。

現在妊娠6ヶ月で、3月に出産予定。



Bさん

保育士7年目。堀江保育園に2年勤務。くるみ園に異動し5年目。

もうすぐ2歳になる男の子を子育て中。

産休・育休を取り、11カ月で仕事に復帰。

子どもは保育園に通っている。

～アドバイザー紹介～



Cさん

2008年いつきの里入職、2011年ウィズに異動。2021年MOREに異動。

ウィズ在職時に、3度の産休・育休を取得。時短勤務等経験あり。

現在3人の子育て中（小6女の子、小4男の子、小1男の子）。



Dさん

新卒で松山福祉園に入職し、14年目。3度の産休・育休を取得。

現在3人の子育て中（年長男の子、3歳女の子、1歳女の子）。

福角保育園に通っている。

以上の4名で座談会がスタートしました。

テーマ ～自分らしく働きつづけるために。

これからの私を考える～

仕事をするうえで、ちょっと悩んでることありませんか？

結婚、出産育児など、大きなライフステージの変化によって、今後のキャリアをどうすべきか悩む女性が多いのではないのでしょうか。

仕事にやりがいを感じつつも、

「キャリアが進むにつれて、家庭との両立ができるか心配。」

「結婚、出産を考えると、これからどうすべきか悩む。」

「将来に対して漠然とした不安がある」

そういった様々な思いを巡らせているかもしれません。

今回は、中堅メンバーでキャリアアップ座談会を開催しました。産休育休が取りやすい雰囲気になってからのさきがけのメンバーで、3人の子育てをしながらずっとお仕事を継続されているお二人なので、いろんな苦労話など聞けるのではないかと思います。これから子供が産まれたり、大きくなっていく子供をどのように仕事しながら子育てしていけばいいかなど、ぜひ活発な質問していただけたらと思います。



参加者に質問です

Q. キャリアアップや将来に対する不安はありますか？

YES

or

NO



Aさん：これから産休・育休を取得していくので、子どもが産まれてからの生活がまだ想像できません。復帰してからも仕事を続けていきたいですが、どのくらい両立できるか不安です。

Bさん

キャリアアップ自体への不安は感じていないけど、
そこまで上を目指していきたいとも思っていない。
今のバランスとお給料で楽しく仕事をしたいと思っています。



仕事と家庭の両立において、皆さん、キャリアアップや将来に対して不安を抱えているようです。



アドバイザーに質問です

Q. 時短勤務は利用しましたか？

YES

or

NO



Dさん：復帰して1カ月だけ自分自身がどのくらい両立できるか不安だったので、時短にしました。子どものことを考えたら本当は時短で働いた方がいいのかなと感じましたが、実際に任される仕事量はさほど変らなかったの、収入のことも考えてすぐに時短勤務をやめました。



Cさん：時短勤務は、何回か子どもの成長に合わせて取得しました。本来は就学前の子どものためにある制度だけど、当時の上司に相談させてもらい、小学生になったタイミングで下の子の保育と合わせて取得したこともありました。



参加者に質問です

Q. 時短勤務はどんなイメージですか？

1. まだ分からない。

2. すぐには退勤できない。

3. 収入が減る。

自分自身の生活スタイルを整えていくための準備期間として、活用することも一つの方法ですね。Aさんのように特殊な職種であれば、周りとの協力体制など仕事内容を見直して、調整していく必要がありますね。

女性がキャリアに悩む理由

結婚と育児は、男性・女性関係なく訪れる変化です。出産後にも仕事を続ける女性の割合は徐々に増え、夫婦で共働きをするというイメージも徐々に一般的になっています。

しかし、実情を見ると、家事育児関連の時間は他先進国の平均 5.6 時間（うち育児 2.07 時間）に対し、日本は 7.34 時間（うち育児 3.45 時間）です。家事全体の時間では 1.3 倍、育児の時間は 1.67 倍にもなります。

まだまだ私たちの頭の中には、「家事・育児は女性がするもの」という考えが無意識化にあります。

その結果、ライフステージの変化を重く受け止めるのは女性が多いようです。



参加者に質問です。

Q. あなたの理想のライフスタイルは？

- 1.生活・プライベートよりも仕事を優先して働きたい。
- ②仕事も生活・プライベートもどちらも力を入れて働きたい。
- ③生活・プライベートを優先し、仕事はできる範囲で働きたい。
- 4.仕事はしないで、それ以外の生活を楽しみたい。
- 5.その他



Bさん：理想は3（生活・プライベートを優先し、仕事はできる範囲で働きたい）かな。時々ふっと仕事に、「なんで自分の子じゃなくて、違う子みよるんやろ？」と思う時がある。特に自分の子と同年齢の子を見ているときに、自分の子と同じことしてるな…とったりする。仕事から帰ると、すでに子どもが寝てしまっていることも。「今日一日、自分の子と遊んだかな？」と思うことがある。どうしても仕事に力をいれすぎてしまう。オンオフの切り替えがいたるなあと感じている。



みなさんに質問です

Q. 近くに育児の協力をしてくれる人はいますか？

YES

or

NO



Cさん：義理の両親と同居している。子どもが保育園の頃は、食事も義母と交替で作っていた。義母への申し訳なさもあり、自分が食事担当をする日にはものすごく頑張って6時過ぎには食べれるようにしていた。義理の両親と同居していることで、いつも誰かは家にいてくれる安心があるので、仕事を続けることが出来ているのだと思う。ただ、両親と同居していることで児童クラブに入れなないデメリットはある。夏休みなどの長期休暇は、近くに住む実姉にも助けてもらいながら仕事をしている。

Dさん：旦那が夜勤のときなどは、一人で3人を見るのは大変なので、近くに住んでいる親が手伝いに来てくれており、助かっている。



そもそもキャリアって？

キャリアは「人生そのもの」

「キャリア」と聞くと、仕事における経歴などをイメージされる方が多いのですが、それだけでは不十分です。元々キャリアとは、「馬車の車輪の通った跡（わだち）」からきている言葉です。

生まれてから死ぬまで人生は繋がっているのですが、後ろを振りかえると、これまで自分が歩んできた人生が、車輪の跡となって表れてきます。そして、この先は一体どこに向かうのか、この車輪の行き先は自分自身で決めていくことになります。そうした概念も含めて、キャリアは全般的に「人生そのもの」と捉えていただくのがいいでしょう。

女性にとっての「キャリア」とは？

女性はキャリアを考える上で、女性ならではのライフイベントがあるため、それを選択するかどうかも含めて、自分で決めていかなければなりません。

キャリアにおける大きな転換点となるのは結婚そのものではなく「子供をもつかもたないか」になります。出産はどうしても仕事から離れる期間が必要になりますし、子供が生まれるとこれまでと全く同じといった生活、働き方は難しくなります。しっかりと考えておきたい大切な観点です。

仕事をどう位置づける？

そして次に重要となってくるのは、人生の中で「仕事」をどう位置付けたいのかです。

これは女性に限った話ではなく、男性にも言えることです。自分のキャリアを考える上では、そもそも仕事を通じて自分は一体何をしたいのか、どういう価値を出したいのかを考えることがとても大切です。

人によっては、仕事は給料を得るためだけのもの、と割り切る選択もあって良いことだと思います。忙しい日々を過ごしている人こそ、人生においての「仕事の位置づけ」をしっかりと考えることがとても大切です。



アドバイザーに質問です

Q. 結婚や出産を機に退職を考えたことはありましたか？

YES

or

NO



Cさん：ないです。正直に言うと、退職する理由がなかったです。仕事も楽しいし、子育てを協力してくれる環境も公私共に整っていたし、退職する理由が無かったのが大きいかな。



Dさん：退職を考えたことは無い。けれど、3人になって家が回らないな…と感じることはある。



Q. 入職時から主任や係長になりたいと思って仕事をしていましたか？

YES

or

NO



Dさん：入職した時、同期に「3年経ったら辞めるから」と言っていた。たぶん、そのあたりで結婚するから退職になるかな？と漠然と思っていた。もちろんキャリアアップは考えてなかったと思う。



Cさん：私も興味が無かった。産休・育休を繰り返し取得しており、主任の話を聞いた時に、自分よりもっと頑張って働いている人もいるし「いいです」と断ったけど、下が詰んでくるから…と言われて、なった。係長は、異動のタイミングで、組織図的に受けておかないといけない、落ちたらダメだなというプレッシャーで受けた。「係長・主任だからこの仕事、というより、私だから、〇〇さんだから、この仕事をしたい…」というほうがいいかなと思う。

女性はどうしても相対的に男性よりも多く役割を期待される場合が多いため、「自分ならどうしたいか」と言うことを常に考えていくことが大切ですね。



アドバイザーに質問です

Q. 主任や係長になって、仕事は増えましたか？

YES

or

NO



Cさん：仕事が増えたという実感は無い。毎年毎年できることが増えていって、その上乗せみたいに捉えている。

Bさん：役職がつくと、求められる仕事が増える印象がある。
その立場になると考え方や捉え方が変わってくるのだろうか。事業所によっても違うのかな。



今は働く女性の志向も変わってきて、仕事か家庭かの選択ではなく、
仕事も家庭も頑張りたい＝フルキャリ という新しい価値観が生まれているようです。

先輩職員に聞いてみたいあれやこれ！！

参加者からの質問になんでも答えます！！



Q. 子どものことで、しんどかったことは？

Cさん：子どもが1年生になったとき、4月は順調に通学していたけど、5月になって給食が始まり学校の時間も長くなったタイミングで、突然「学校に行きたくない」と泣きながら行っていた。そのときは、子どものその日の調子で、勤務の調整をさせてもらっていた。そのときは「仕事していて子どもとの時間が少ないからダメなんかなあ」と悩んだこともあった。そんなとき、夫と子供との男同士の約束で、6月になったら急



に行けるようになった。今は思い出になっているけど、そのときは悩んだし、つらかったなあと思う。



Bさん：同居だから、子どもが体調を崩しても、それほど高熱などでなければ、仕事に出れてしまう。職場は心配してくれるけど、実際あまり有休は取っていない。母親として悩んでしまう。

参加者の皆さん、アドバイザーの皆さん、ありがとうございました。

アドバイザーの方の話を聞いていると、キャリアアップを目指して頑張ってきたというよりは、目の前の仕事にただひたむきに取り組んできた先にキャリアアップがあったということではないかと思います。参加者のみなさんも「昇格したい」「こういうポジションで働きたい」というよりも、「利用者や利用児の役に立ちたい」「働いて社会に貢献をしたい」など社会的な面が強いのではないのでしょうか。

どうしても相対的に男性よりも多く役割を期待される場合が多い女性にとって、これからキャリアを築いていくにあたっては、「自分はどうしたいか」ということを常に考えていくことが大切です。そして、キャリアに対する考え方は、お子様や家庭、仕事の状況に応じて、その時々で想像以上に変化していくものだと思います。どんな働き方をしたいのか、自分にとって仕事はどんな位置づけなのか、という点を明確にしながら、最善の選択をしていきたいものです。

今までは多くの女性が家庭か仕事かの二者択一を迫られてきた状況から、「仕事と家庭、どちらも諦めなくていい。」それがこれからの時代のひとつのスタンダードになるという社会の新しい価値観や変化を感じます。これからは女性も男性も、その時々に合わせて、働き方や家庭への向き合い方を軽やかに変化させられる、そんな世の中や組織であってほしいなと思います。



社会福祉法人
福角会